



カンサイ株式会社「プラスチックリサイクル」
工場長 濱村 忍さん

エコな人・みつけた

【第3回】

リサイクル最前線。

リサイクルの手法は、廃棄物を原料にして新しい製品を作るマテリアルリサイクル、廃棄物を燃料として活用するサーマルリサイクルに大きく分類されます。エコムカフムラ(株)では産業廃棄物の中間処理を行っていますが、再生可能な資源はいずれかの形で再資源化されます。

今回紹介させていただくのは、当社の協力会社でプラスチックのマテリアルリサイクルを専門に行っているカンサイ(株) (岐阜県揖斐郡大野町)です。同社の特徴は、大規模な加工施設「マテリアルリサイクルセンター」を備え、破碎、粉碎、分級、梱包圧縮を行っていること。各素材に応じた加工方法を駆使することで、質の高いプラスチック資源を求めるマーケットニーズに対応しています。

常に効率化を意識。

そのなかにあって工場長の濱村さんの役割は、買取り資源の加工・出荷に関わる監督業務。無線機を片手に、工場内の各工程から入ってくる情報に耳を傾けながら対応に追われます。「ミスをしたら、加工に手間をかけ過ぎては、商売になりませんから」と濱村さん。プラスチックはさまざまな種類がある上、入荷される状態・形状もまちまち。それらについてできるだけ手間をかけずに加工し、商品化するかが腕の見せどころというわけです。

いくらプラスチックを集めても、採算が合わなければ、リサイクルルートには乗せることはできません。リーマンショック後は、あまりにも急激な原料相場の値下がりにより在庫滞留を余儀なくされたといいます。「循環型社会」という理念だけでは、リサイクルは実現できません。排出側、利用側それぞれのニーズを応えることができ、はじめてリサイクルの流れが作り出されるのです。大げさにいえば、再生資源を通して世界経済はつながっているということ。同社では「循環型社会を支えている」との気概を持って、仕事に取り組んでいます。

取材へのご協力に感謝します！

勤務中は無線機が手放せない工場長さん。取材中も、常に現場に目配せしている様子がかがえました。丁寧なご対応ありがとうございました。



ISO14001：2004 認証取得企業です。



一か月の取扱量は1500～2000トン。さまざまな種類のプラスチックが搬入・搬出されます。



嵩の大きいペットボトルは、圧縮・破碎をかけて減容します。



キャップ・本体・ラベルは、それぞれ素材が異なるため、分別されていきます。